



越村 敏昭

東京急行電鉄
相談役



東急電鉄の事業テリトリーは、第1には鉄道業の存在する首都圏西南部、次いで昭和30年代に開業した伊豆急行線の周辺である静岡県東部と、札幌郊外の定山溪鉄道と複数のバス会社を傘下に収めたことにより北海道に広がっていった。事業内容も交通事業、土地開発事業、商業、観光サービス事業、そしてアメリカ、中国、東南アジア、オーストラリアなどの海外へと広がっていった。

昭和の終わりから平成の初めにかけて、私は「東急イン」(現東急ホテルズ)というブランドのホテルの全国展開を担当し

ていた時期があった。当時、私は出店候補地を見に、あるいは出店が決まって開業準備のために全国に出張していた。特に足しげく通ったのは北海道。当時、北海道には札幌・旭川・釧路・北見・サロマ湖に「東急イン」や「東急リゾート」があった。出張に行くついでに観光地に足を運び、家族にも北海道の話をよくしていた。

1枚目の写真は、昭和60年に出張に行ったときの道東の硫黄山。硫黄山は屈斜路湖と摩周湖の間、川湯温泉の近くにある活火山。今は山頂付近への出入りは禁止されている。

それから数年後、出張のときの話や写真を見るたびに、家族から「私たちも行きたい」と言われて連れて行った家族旅行。旭川空港でレンタカーを借りて、旭岳～層雲峡を観光し、2枚目の写真の場所に行き、旭川東急インに泊まった。翌日は北見を回って、美幌峠へ行き、女満別空港から帰京。当時娘は大学生で20数年前の良き思い出である。

北海道旅行



道東の硫黄山



旭岳～層雲峡